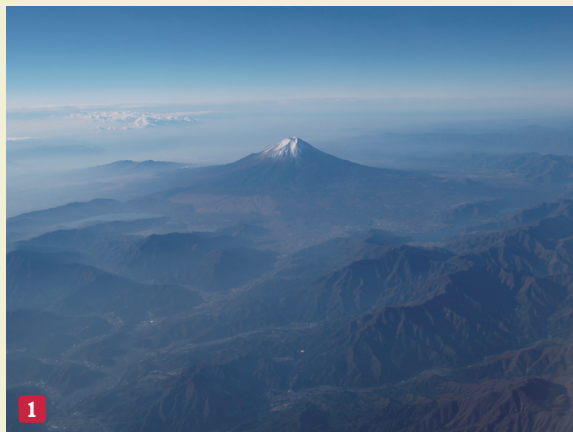


# 独立峰の生き物たち

独立峰はその成り立ちや環境も多様で、個性豊かな動植物が息づいている。富士山、利尻山、筑波山の貴重な固有種を手掛かりに、その自然を覗いてみよう。



1 富士山の秀麗な景観は、その生物多様性に支えられている 2 フジコバネヒナバタの生息環境 3 フジコバネヒナバタの雌（手前）と雄 4 宝永火口のフジコバネヒナバタ

## 生物多様性が支える 独立峰・富士山の優美な景観

日本の代表的な「独立峰」は？と聞かれて、ほとんどの人は「富士山」と答えるのではないだろうか。それは、世界で最も美しい火山と称される壮大で優美な景観が、日本の代表的な風景として描かれたり、信仰の対象となってきたりしたからである。「富士山」が、信仰の対象と芸術の源泉として世界文化遺産となり、日本人の心のふるさとともいわれる所以である。

実は、この世界で最も美しい火山である富士山の姿は、その生物多様性の高さが支えている。冬に白く見える場所が富士山の高山帯であり、亜高山帯から下の部分との絶妙なバランスが、その美しい景観を形成している。また、コニエ型で裾野の広い火山であることが、樹海や里山などの山麓の自然の豊かさを生み出し、現在の富士山の生物多様性の高さを支えている。

一方、現在の「富士山」は、約1万年前からの噴火でできた「新富士火山」の噴出物で覆われている。新しい火山であることが、南アルプスなどに生息する氷河期の生き残りといわれるライチョウやタカネキマダラセリ・ハイマツなどの高山性動植物がいらない理由とされてきた。しかし、2006年に宝永火口で高山性のフジコバネヒナバタが発見され、2016・2017年には富士宮大沢周辺の高山帯でも確認できた。成虫雌は翅が短くほとんど飛ばないと考えられており、雄も翅が腹部より短いので飛ぶのは得意でないと考えられている（写真4）の、標高2600〜2900mの高山帯だけに生息している。さらには、DNA分析の結果、南アルプスの高山帯に生息

するアカイシコバネヒナバタから分化して、富士山で独自に亜種レベルまで進化してきたと考えられている。過去には高山性のソウウンクロオビナミシヤクや亜高山性で富士山固有のフジシロミヤクヨトウなども見つかった。富士山の高山帯の生物多様性も見直されつつある。「独立峰」で、新しい火山である富士山にも、固有種といえる動植物の進化がみられ、さらに富士山の生物多様性が高まってきているといえよう。

このような富士山の生物多様性の高さは、日本列島のほぼ中央の、4枚のプレートが重なりあう世界的にみても特異な場所から、膨大な量のマグマが何段階にもわたって噴出し、日本一の3776mの高さを持つ奇跡の火山がつくられたことが基となっている。これは、富士山が「独立峰」となった主要因でもあり、中央火口から噴出した溶岩などの火山噴出物の量と質が、現在の富士山の均整のとれたキュービック・スプライン曲線からなる安定で優美な姿を形づくったともいえる。「独立峰」と呼ばれる山の多くは、この様にして奇跡的に形成された火山であり、その代表が、世界で最も美しい火山「富士山」であるといえよう。

### 渡邊通人=文・写真

わたなべ・みちひと／東京農工大学農学部卒業。25年間高等学校理科教諭を勤めた後、河口湖フィールドセンター自然共生研究室長・館長を歴任、2012年NPO法人富士山自然保護センターを設立、現在、理事・自然共生研究室長。